

旅と絆

(株) センターツーリスト「旅行友の会」会報

第35号(夏号)

発行責任者 古久保 暢男
電話 06-6354-9131 (代)
FAX 06-6354-9134
E-mail c.t@f7.dion.ne.jp

心に残る旅は平和から

5月14日(土)、センターツーリスト旅行「友の会」総会が開催されました。

今年も午前中は繁昌亭で落語を楽しみ、午後は会場をグリーン会館に移動して顧問の一法真澄さんと伴奏グループ(写真)のジャズ演奏を楽しんだ後、総会を開きました。

落語会のみで帰られた方は数名で、総会出席者は96名。



活発な意見が交わされた総会

各分会(山部会、囲碁部会、写真部会、ニュース部会)の活発な取り組みの報告に続き、意見交流でもケニア、三峡下り、東北の旅などに参加した方々から感想が述べられ「次回の企画にも参加したい」と期待の声もあがりました。

総会の締めくくりの挨拶をされた姫野浄さんは「今年も心に残る旅の企画を、そのためには平和な世の中を築くことが大切だ」と結ばれました

東日本震災支援

カンパに感謝します

総会で提案したカンパは一万五千余円が集まりました。

総会後は昨年と同じ大川端の交流宴会に50数名が参加。岩本禎子さんの指揮で大合唱を楽しむ場面(写真)もありました。

(事務局長 上村得世)

気楽な雰囲気での総会



昨年初めて総会に参加(友の会に入会)。今年は2回目でした。

落語がオプシオンだったのもいい企画だと思えます。

今回はさらに一法さんの一流の演奏家を伴ってのサクサク演奏があり、「総会でなかったらー」という感も。

総会は、固苦しい報告もなく気楽に参加できる雰囲気がよく、旅行に参加しての思いが発言されていたことで総会らしくまとまったように思います。 亀井勝正(吹田)



棚田撮影会

6月5日、曇天下での撮影会。目の前に広がる一面の棚田に歓声。「棚田100選」にも選ばれている下赤坂棚田。「棚田を守る会」の方々にしっかり守られていました。

早速撮影開始。多くのボランティアによる田植え(手植え)があちこちで見られ、私たちも懸命にシャッターをきりました。



写真部



藤棚バスツアー

4月29日、昨年に続き今年も和歌山・美山の里の藤棚ロードへ。50人近い参加者で快晴の下、藤と温泉と地産物の買い物を楽しみました。近くの神社では珍しい祭事も鑑賞しました。初参加のH夫妻の感想は「周りの方が声をかけて下さり、すぐに皆様の輪に入れて楽しい一日でした。毎日、店の仕事に追われ、久しぶりに生き返った感じでした。何よりも温泉にゆっくり入れて至福のひとつときでした」と。

私のコーヒブレイク

縁がないからこそ憧れるものがあります。筆頭は書道。小学校時代、授業で書道の時間はあったが、貧しくて筆と墨の持ち合わせがなく、隣席の生徒が書いているのを見ていた記憶しかない。通夜や告別式の受付に置いてある毛筆を

無縁へのあこがれ

見ると、思わず後退り。次いで俳句、短歌、川柳など。たしなむ彼らの脳の言語中枢は、七と五の文節しか生み出せない特殊な構造になっているのだろうか。しかし、案ずるなかれ。び

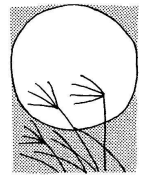
悪筆は象形文字の残影とうそぶき、俳句や短歌は上流階層の戯れ言と自らに言い聞かせてはいるものの、唸るような書体や句に出会うと、文字や言葉の美しさに感動することもしばしば。地域の句会勧誘ポスターや書道ペン字入門記事に心さわぐ一方、「いまさら」の思いが首をもたげ、決断できない前々中期高齢者です。

「さこや」お月見会のご案内

今年も友の会交流・親睦会を開きます。

連絡先はセンターツーリストまで。

- とき 9月24日(土)～25日(日)
- ところ 旅館さこや(奈良県吉野)
- 参加費 11000円



予告！ 小谷城址へ

山部会

11月上旬に小谷城跡地に。「大河ドラマ」「お江」が戦国の乱世を生き抜いた中心地。近江と越前を結ぶ自然の要塞の地へ。詳細は次号(秋号)で。

涼しさ一杯の地で熱戦 囲碁部会

とき 7月24日(日)～25日(日)

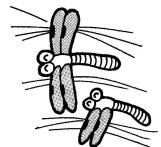
ところ宇陀市榛原内牧

吹田NPO法人高原の家

参加費5000円(一泊二食)

連絡先 岡田072-832-3213

上村072-633-6791



印象が変わった 韓国平和の旅



水曜集会に合流

前回行った時とくらべ韓国がバラ
ンスよく民主的に発展していると感
じました。7年前は日本に対する
“うらみ”を強く感じ、日本人であ
ることが恥ずかしく思いました。
西大門刑務所では、民主化運動
の活動家が拷問された事実の展示
だけでなく、韓国と日本の子ども
間にかけ橋がかかっている展示があ
たりで、ほっとしました。
すべての施設を復元しようとする
韓国政府の姿勢に感心しまし
た。

会員さん紹介

元気をもらい、「ごちそうさま！」

藤原 一郎

美山の里・藤棚口
ドバスツアーを契
機に祖谷温泉の旅
へと大変楽しく参
加させていただき
大阪市役所を退職し
て2年が過ぎ、ひたす
ら寝に帰っていただけ
の居住地にも顔見知り
が幾人かでき、医療生
生協理事として忙しい

日々を送っています。
さて、東日本大震災で
は繰り返し行われた市
町村合併で公務員を減
らし、災害の傷口を大き
く、原発問題では、新自
由主義・自己責任論の蔓
延で国家責任の消滅。
大阪市長選・知事選は
「自治」「参加」「協同」を
柱にした組織づくりを

「友の会」は個性豊かな
方々で満ち溢れ、なに
よりも、日ごろの様々
な分野で活動されてい
ることがひしひしと伝
わってきます。
私のような年齢は
「友の会」青年部みたい
なもの！元気をたくさ
んもらい、ご馳走様。



会員文芸欄

短歌 病室にて

燕 沙規子

今日もまた 微熱のからだ 横たえる
入道雲の 空をながめつ
病室の 窓のおこうは 煌の街
頭痛も微熱も 一瞬は消え
さりげなく 病気はどうと見舞い客
乙女になりし 孫の横顔
熱も去り ようやく叶った髪洗い
バラの香残して 三つ編みにする
点滴の 滴のおこうに うろこ雲
移ろう季節 雲に重ねて
吸入の 機械を止めて 耳澄ます
雑木林に 興梔の合唱
見舞い客 去りし病室 音もなし
上弦の月 光り清かに

※俳句、短歌、詩、エッセイなどの原稿をお待ちしています





笑いの絶えない阿波の旅

小西 庫一

前日までの天候が打って変

郷土料理のオンパレード。

わり、さわやかな五月晴れの中、39名が梅田を出発。明石海峡大橋、大鳴門橋を走りぬけ、昼食は「阿波の里」へ。鳴門金時づくしで個人的に大満足。

「39人の参加でサンキュー」の古久保会長のあいさつが大ヒット。そして戎亭福助(天堀博)さんの落語「やどがえ」に大爆笑。自己紹介もまたユニークだった。

うだつの町では、男性ガイドの「右甚五郎」が大うけ。江戸から明治、昭和の家々が今も現役だ。

翌朝には観光客がいないかずら橋を撮りに行く。某新聞の読者の広場に早速投稿。みなさんご期待を。

阿波池田の町を越え、大歩危、小歩危の溪谷を見ながらホテルに到着。ボネットバスに乗り換え「かずら橋」へ。平家の落人が敵襲に

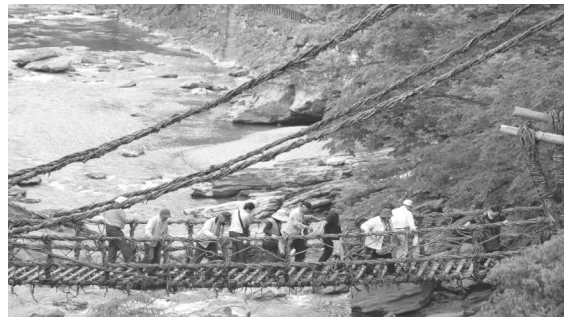
最後の鳴門では鯛を賞味したあと渦の道へ。激しい潮の流れが45mの高さからよく見えた。

対し、切って落とせるようにミラクチカズラという蔓(つる)で作っている。一人か二人落ちるのではないかと心配したが、全員無事に渡れた。夕食大宴会は、鮎塩焼き、でこまわし、アメゴの造り、祖谷そば、そば米雑炊と、

笑いの絶えなかった一泊旅行。脇町でみんながうだつを上げ、大歩危、小歩危通った旅だったが、参加されたみなさんにはどちらの影響が残っておられるだろうか。添乗員、ガイド、ドライバーのみなさん、ありがとうございました。

渡れました！かずら橋

湯浅 節子



へっぴり腰行列

♪祖谷のかずら橋やくものゆの如く 風邪も吹かんのにゆらゆらと♪
「祖谷の粉挽き節」の一節である。
この橋は、かずらをより合わせで作ってあり45mあるのでよく揺れる。実はこの地には二度目である。

一度目は38年まえの73年8月だった。やはりかずら橋を見に行ったが「ああこれは私には渡れないわ」とすぐにあきらめてしまった。今回ははじめから「こんどこそ渡ってみよう」と心をふるい立たせた。
かずら橋のさなぎ(渡し板)に足をかける時は体がふるえたが、そばに一人の男性が「がんばれ」といって私をほげまして下さった。
私はなるべく下を見ないようにならぬと思ったが下を見なければ足場も定まらないし杖をついているので、杖もさなぎの上にはのらない。清流とその波立つ音が私をせかす。
観念して渡るしかない。太いくも綱を頼ってやっと対岸にたどりついた。先に渡っていた人たちから拍手がおきた。楽しい旅をみなさんありがとうございました。

